

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 4 月 30 日 更新

事務事業名		在宅当番医制実施事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2	福祉の健康			所属部	健康福祉部	課長名	末永 大樹
	施 策	5	健康づくりの推進			所属課	健康ほけん課	担当者名	田中 景子
	施策の柱	21	地域医療体制の充実			所属班	健康づくり班	(内線)	1182
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 1	事業連番 10381	根拠法令		
終了、開始年度		☒ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市民が、休日に病気になったとき、受診ができるよう菊池郡市医師会に委託し、当番制で医療機関を開けてもらう。 昭和50年代に休日に受診ができる体制の検討が進み、県の補助事業として関係者との協議の結果、菊池郡市医師会に委託して実施することで郡内で統一して取り組みをはじめた。 広報紙やホームページ、新聞等で周知をしているので休日の受診医療機関としてこの事業は、市民に定着している。 令和6年度から(10382)二次救急医療圏病院群輪番制運営事業(新事業名:医療体制整備事業)へ統合。
【業務の流れ】	委託契約の起案、契約締結、事業実施、実績及び請求書の確認、支払い事務
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	広報で、翌月の中旬ぐらいの予定まで掲載されていると助かるとの市民からのご意見があり、そのように掲載している。 菊池郡市薬剤師会長から、休日当番薬局の広報掲載についての依頼があり、平成21年7月から合志市の当番薬局を掲載することとなった。 また、携帯を利用して休日当番医を知りたいという要望もあり、平成24年4月からホームページの携帯サイトの利用で確認してもらえるようになった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:	
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO)		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
菊池郡市医師会に委託し、休日に受診できるよう医療機関(当番医)を決めて実施した。		菊池郡市医師会に委託し、休日に受診できる医療機関(当番医)を確保し実施。 令和6年度から(10382)二次救急医療圏病院群輪番制運営事業(新事業名:医療体制整備事業)へ統合。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 委託医療機関数	件	令和6年度から(10382)二次救急医療圏病院群輪番制運営事業(新事業名:医療体制整備事業)へ統合による減	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
市民		→ ア 人口	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
休日の病院受診ができる		→ ア 受診できなかった件数	件
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
医療機関の体制が整っているに関わらず、休日に受診できず状態が悪化しないことが、この事業の目的でもあるため、受診できなかった人がいないような体制の整備が必要であるため。			全体計画 ~ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標		ア 件 イ	117	117	117	104	0	0	0	0	
② 対象指標		ア 人 イ	63,841	64,453	65,500	64,787	0	0	0	0	
③ 成果指標		ア 件 イ	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資 入費 量	事業 内訳	財源	国庫支出金 千円								
		都道府県支出金 千円									
		地方債 千円									
		その他 千円									
		繰入金 千円									
		一般財源 千円	1,439	1,476	1,476	1,476					
	(A) 事業費計	(A) 事業費計 千円	1,439	1,476	1,476	1,476	0	0	0	0	
		(A)のうち指定経費 千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤 千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件 費	正規職員従事人数 人	2	1	1	1	0	0	0	0	
		延べ業務時間 時間	12	10	60	5	0	0	0	0	
		(B)人件費計 千円	46	38	239	18	0	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B) 千円			1,485	1,514	1,715	1,494	0	0	0	0

事務事業名	在宅当番医制実施事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康ほけん課
-------	------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 管内医療機関の今後の増加については、一概に暫時増加するとはいえないが、他地区に比べ、医療機関数は充足している。在宅当番医の周知が図られていることから、現在、受診ができない人がいなかったということで、目標は達成されていると考える。
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 広報での周知、新聞紙上の掲載等、住民の方に休日在宅当番医制度は十分周知されていると思われるので、達成可能と考える。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 事業を開始して以来、30年以上が経過し、市民に定着した事業となっているので、今後も継続する必要がある。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 医師会との協議で、最小限の委託料となっているので、これ以上の削減余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事務に係る時間数も最小限で行っておりこれ以上の削減余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市民全員を対象としているので公平公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 医師会との委託契約、調整のため、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

休日の急な病気やけがへの対応のため、長期にわたって整えられてきた事業であり、市民の医療の確保のために重要な事業で、自治体として人口を基礎として負担金を拠出している。特にインフルエンザなどが流行する冬場は、利用が多く、広く認知されている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）